海 徹底解剖

が、他の地域のものとは いえばやはり「海の家」ですね。 海 気通

2号」でとりあげた埋立前 一味違ったと聞きます。 稲毛の海にも、 の稲 毛 海 どんな海の家だったのでしょうか? たくさんの海の家が並んでいました 水浴場。 海水浴 で 楽 しみ の つと

稲 毛 **ഗ** 海 ഗ 家 は 「納涼台



千葉街道 (国道14号) 沿いに並んでいた海 の

家は、 が楽しめたことでしょう が満ちたとき、まるで海上にいるかのような風景 道路側から見ると 一階建ての家屋ですが、海側か ら見ると高床式になっています。 稲毛では 「納涼台」と呼ばれていました。 遠浅の海岸の潮

春もオープン

群馬や長野など内陸から遥々やって来ることもし ばしばあったそうです。 あまりに穏やかな海だっ たため、「でっかい川だな」と驚く人もいたとか トを販売していました。バスで来る団体客が多く 客さん向けに 「貝の採出券 ・ 熊手 ・ 網」のセッ 賑わう稲毛海岸。 営業していたそうです。 3~6 月、潮干狩り客で 稲毛の納涼台は、夏だけでなく、なんと春にも 海の家では、 潮干狩りに来たお

海岸

発行

2014/10/25

千葉市民ギャラリー・いなけ jp/g-inage/

貝料理が豊富な

「寿ゞ木亭」、網焼きのおいし

「稲毛亭」、「 一 二三館」などの旅館が経

割烹料理なども出した料亭風の 「あさまや」

〒263-0034 千葉市稲毛区稲毛 1-8-35 TEL: 043-248-8723 FAX: 043-242-0729 http://business4.plala.or

稲毛でつくる海苔は、 そうです な寿司海苔になった ので、少量生産の高級 手作業の養殖だった

を兼業していました。秋は海苔づくりの始まり。 納涼台は年中建ったまま。多くの営業者は漁業

さすがに秋~冬にかけては休業です。…が、

海の家のもう 一つの顔

あったようです

船の貸出まで!)など、店舗ごとに様々な特色が 営する海の家、貸ボートを扱う店(船頭付きの和

納涼台の意外な活用方法

向いていたのかもしれません。 びダンスが踊られるなど、海の家にしては珍し ともあったそうです。戦後、華やかな料理が並 作業場や、パーティー会場として利用されるこ で、作業場や大人数が集まるイベント会場にも んが、海の家は 一 面広い座敷になっているの い光景も見られたようです。意外かもしれませ 他にも、時期や店舗によりますが、 飴細工の

っぱり夏の海の家

シャワーやお風呂を併設している店もありまし トを頼むという習慣もあったそうです。 いた広々とした座敷で、脱衣所やトイレの他、 どの海の家にも共通しているのは、ゴザを軟 繁忙期の重ならない成田の方面にアルバイ の家の勝負はやはり夏。 一番の書入れ時に

を支払い、くつろいだそうです た。潮干狩りシーズンと違い、お客さんは席 店ごとの魅力が出たサービス

気になる料理のお品書き

たという稲毛の海の家らしいエピソードも。 名産)など稲毛の海の幸を使った料理でした。 今でも佃煮に形を変えた 「やきはま」は千葉の 小麦粉とパン粉でまとめて揚げたもの、アサリ ルをつくり、 スイカや飲み物を冷やして販売 で、泳いだ後の味が格別だったそう。 にも卵丼やおでんなど手頃価格の食事も人気 の味噌汁付。)、「焼きはまぐり」(網焼きの蛤で、 人気料理は 「貝フライ定食」(アサリの身を 納涼台の下の高床部分に天然のプー 一寿ぶ木

> 館」の文字が!!位置的にもこれが噂の のか?昔の地図を見てみると…そこには

「ちえい

「千栄



れたてのアサリを売る海の 「ちどり」。「寿ゞ木亭」で 、写真のような縁の下に天 プールをつくったそう。

家

おみやげに何を買う?

苔や蛤などの食品から、貝殻のアクセサリー 貝細工の人形まで販売していたそうです。 稲毛の納涼台では、お土産販売もあり、

場面で活躍していました。 このように稲毛の納涼台は、年中通して様々な

> 稲毛に劇場 「ちえいかん」とは 一 体? 謎の芝居小屋

とがあったそうなのです が舞台表にときどき現れ、思わぬ出演を果たすこ 屋を営む 一家が住んでおり、 さらに驚くべきことに、芝居小屋の舞台裏には亙 な芝居小屋でしたが、二 階席もあったとのこと。 や歌謡ショーなどが開かれていたそうです。小さ ん』と呼ばれる小さな芝居小屋があり、年中、 小さな街にこのような ユニークな劇場があった 方のお話はこういうものでした。 <mark>あったという噂を耳にします。ある</mark> 京成稲毛駅近くには 『ちえいか |稲毛には昔、映画館や芝居小屋が 一 家の小さな子供 劇

飯生 沙田 干荣館 秋原牧

現在の「京成稲毛うら通り」を 通って行けた様子。千栄館の左 下には銭湯「常盤湯」も。

かん」のようですが、 わり、 性が率いる 一座の芝居小屋だったそうなのです。 続いて地元に住む古老に尋ねてみると、この 所公園野一二一 置記 一二 その後は「稲毛銀映」という映画館に生まれ変 「千栄館」は大衆演劇の役者大原千栄子という女 長い間地元で親しまれたようです 「千栄」とは

さん、元「 あさまや」営業の志村さん、千葉市観光ボランテ 毛お話会」に参加いただいた皆さん (元・貸ボート業の藤川 にご来場の野口写真館の野口さん●地元の藤川よし子さん: のお話を参考に編集しました。 ィアの皆さん他)●WiCANによる 「カフェkaiki」 今回の海気通信は●元「寿ゞ木亭」営業の鈴木さん●

勇さん(三 段目1点)より提供いただきました。 掲載写真は●千葉市立郷土博物館(一・二段目3点)●藤川